2019年度　社会科実践・研究計画

部　員	○石井　史知，鈴木　聡

研究テーマ

社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用いて課題を追究し，
社会と自分とのつながりを見いだす子どもを育む学び

1　研究テーマについて

昨年度，社会科は「社会的事象の『見方・考え方』を働かせ，社会と自分とのつながりを見いだす子どもの育成」をテーマに実践を行ってきた。その結果，前単元や前時に学習したことと比較したり関連付けたりしたりしながら調べ考える姿や，学習事項をつなげながら段階的に学んでいくことで，問題の解決に際し既習内容との関連を自覚する姿が見られるようになった。一方，社会的事象の「見方・考え方」を学習方略として活用を図ろうとしている姿は見られたものの，視点として示された「見方」にとらわれ，概念にかかわる知識の獲得には至らないこともあった。例えば，地域の特色を考える学習において「土地利用」「建造物」「交通の様子」等視点を焦点化したものの，それにとらわれてしまうことで「見方」が狭まり，各地域の特色を捉えることが不十分となったことが挙げられる。自ら問題解決のために適切な「見方・考え方」を働かせていくことが十分ではなかったという課題が残った。

研究主題の「自律した学習者」の姿を，社会科では，社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用い，社会的事象の意味や特色，相互の関連を考えたり，学習したことを社会生活に活かそうとしたりする姿と捉える。また，「学びをつなぐ」を，既習内容や生活経験を新たな学習に活かしたり，「対話」により共に学ぶ仲間の知識や経験と結び付けたりしながら学習問題を追究・解決することを通して，社会的事象の意味や特色など概念形成につながる知識を獲得し，自分の考えを再構築していくことと捉える。

これらを踏まえ，今年度の研究テーマを，「社会的事象の『見方・考え方』を自覚的に用いて課題を追究し，社会と自分とのつながりを見いだす子どもを育む学び」とした。「社会的事象の『見方・考え方』を働かせ」とは，具体化された着目する視点や追究の方法を自覚的に用いて，学習問題を追究したり解決したりすることである。また，「社会と自分とのつながりを見いだす」とは，地域社会の一員，将来を担う国民としての自覚をもち，社会への関わり方を選択・判断し，よりよい社会を構想することである。

そこで，今年度は「見方・考え方」を自覚し社会との関わり方を自ら選択・判断するための省察のあり方を工夫すること，獲得した「見方・考え方」を働かせ，概念に関わる知識の獲得を図る単元構成の工夫をしていくことで「自律した学習者」を目指したい。

社会科における「学びをつなぎ，資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- 社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用いながら，社会的事象の意味や特色，相互の関連を考えている姿
- 多様な視点や立場から社会的事象を捉え，自分自身の考えを深めている姿
- 地域社会の一員，将来を担う国民としての自覚をもち，学習したことを社会生活に活かそうとしている姿

２ 研究の重点

(1) 学習の問題を追究・解決する過程の質を高める省察の手立ての工夫

問題を追究・解決する過程の質を高めるために，省察の場を意図的に位置付ける。まず，単元や授業の導入時に，既習とのつながりを自覚し，課題設定に向かうための省察を行う。既習の社会的事象に関する知識，獲得した社会科の「見方・考え方」を確かめることで単元を通して得られるであろう知識やこれからの学びについて見通しを立てられるようにする。次に，現在の自分の状況を自覚するための省察を学習過程の中に位置付ける。そして，単元や授業の終末時に，獲得した社会的事象に関する知識，新たに得られた「見方・考え方」を自覚するための省察を行い，社会と自己とのつながりや，どう関わっていけるのかを考える場を設ける。

(2) 社会的事象の「見方・考え方」を働かせ，概念的な知識を獲得するための単元構成の工夫

位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目する見方，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりする考え方を自覚的に用いる場を単元を通して設定する。単元の始めにその学習とつながる既習内容を想起する場や，終末に単元を通した学習の到達度を省察し，自分の考えを再構築する場を重視する。各単元における「事実認識―関係認識―意味認識」の段階を整理した上で，着目する社会的事象の配列を工夫し，事実に関する知識を獲得する活動や概念等に関わる知識を獲得する活動を効果的に位置付ける。「事実認識」の段階では，事実に関する知識を獲得する活動を位置付ける。そこでは，多様な視点や立場から情報を収集したり読み取ったりすることを重視する。「関係認識，意味認識」の段階では，概念的な知識を獲得する活動を位置付けることで事実に関する知識を基に，社会的事象の意味や特色，相互の関連を考察することにつなげる。

３ 研究・研修計画

時　期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
１学期	・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会（5/31） ・附属小学校公開研究協議会（6/ 7） 提案授業　鈴木：５Ｃ ・初等社会科講義①②	・実践・研究計画の立案 ・附属中学校との共同実践・研究 ・授業を通して重点事項の検証 ・大学生への講義
２学期	・研究パンフレット執筆 ・東北附連研究集会（10/31） 提案授業　石井：３Ａ	・実践・研究のまとめ ・授業力向上，授業提案
３学期	・秋田大学との連携 ・教科部会	・社会科教育研究室の研究会 ・子どもの見取り，子ども理解 ・実践・研究の方向性の確認

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除修正